

創立
70周年
記念
★★★

特別演奏会 マーラー〈千人の交響曲〉

2026年6月21日(日) 17:00 / 6月22日(月) 19:00

サントリーホール 指揮: カーチュン・ウォン [首席指揮者]

ソプラノⅠ (罪深き女): 船越亜弥 ソプラノⅡ (懺悔する女): 吉田珠代
ソプラノⅢ (栄光の聖母): 三宅理恵 アルトⅠ (サマリアの女): 花房英里子
アルトⅡ (エジプトのマリア): 中島郁子 テノール (マリア崇敬の博士): 宮里直樹
バリトン (法悦の神父): 青山 貴 バス (瞑想する神父): 加藤宏隆
合唱: 日本フィルハーモニー協会合唱団、武蔵野合唱団、東京音楽大学、杉並児童合唱団

マーラー: 交響曲第8番《千人の交響曲》変ホ長調

チケット料金 (税込)

SS ¥15,000 S ¥12,000 A ¥10,000 B ¥8,500 Ys (25歳以下) ¥5,000

◎70周年特別定期会員は最優先発売 最優先発売日 2026年3月5日(木) ~ 3月10日(火)

2026年
3/18(日)
発売



©山口敦

創立
70周年
記念
★★★

日本フィル室内楽シリーズ【東京室内楽定期】が始動

70周年を契機に東京・銀座のホールを中心に室内楽公演を開催いたします。楽員一人ひとりの個性や技術、息遣いを間近にお楽しみください。

東京室内楽定期 Vol.1

2026年3月23日(月) 19:00 銀座 王子ホール

モーツァルト: オーボエ四重奏曲 へ長調 K.370

オーボエ: 杉原由希子 [首席]、ヴァイオリン: 末廣紗弓、ヴィオラ: 兎仁井かおり、チェロ: 石崎美雨

ヒンデミット: 管楽七重奏曲

フルート: 真鍋恵子 [首席]、オーボエ: 杉原由希子 [首席]、
クラリネット: 伊藤寛隆 [首席]、バス・クラリネット: 楠木 慶 [副首席]、
ファゴット: 鈴木一志 [副首席]、ホルン: 信末碩才 [首席]、
トランペット: 大西敏幸 [首席]

ベートーヴェン: 七重奏曲 変ホ長調 op.20

ヴァイオリン: 伊藤太郎、ヴィオラ: 小中澤基道、チェロ: 門脇大樹 [ソロ・チェロ]、コントラバス: 森田麻友美、
クラリネット: 伊藤寛隆 [首席]、ファゴット: 鈴木一志 [副首席]、ホルン: 信末碩才 [首席]

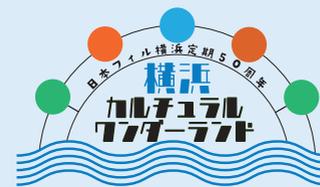
Vol.2 2026年11月29日(日) 14:00 ヤマハホール Vol.3 2027年3月7日(日) 14:00 ヤマハホール



チケット 好評発売中

[料金] 一般 ¥4,500

日本フィル
各種有料会員
¥4,000



人、音楽、自然——日本フィルのテーマです。

JAPAN
PHILHARMONIC
ORCHESTRA

— 創立指揮者 渡邊 暁雄 —

日本フィルハーモニー交響楽団
JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA

第414回

横浜定期演奏会

414th YOKOHAMA Subscription Concert

2026年1月24日(土) 午後3時開演

横浜みなとみらいホール

3:00pm January 24th (Sat.), 2026, at Yokohama Minato Mirai Hall



主催: 公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団

後援: 神奈川新聞社、+vkk(テレビ神奈川)

協力: 横浜みなとみらいホール

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))

独立行政法人日本芸術文化振興会



文化庁

70周年記念特別定期演奏会 横浜定期演奏会

横浜みなとみらいホール 土曜 15時開演

第416回 2026年4月25日

尾高忠明と前橋汀子——円熟の輝きが舞台を満たす
指揮：尾高忠明 ヴァイオリン：前橋汀子
ディーリアス：楽園への道（歌劇《村のロメオとジュリエット》より）
メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲
シベリウス：交響曲第5番

S¥9,000 A¥7,500 B¥6,500 C¥5,500 P¥5,000 Ys¥2,500

第417回 2026年5月9日

小林研一郎と小山実稚恵、この二人だからこそ叶う「楽興の時」
指揮：小林研一郎 [桂冠名誉指揮者] ピアノ：小山実稚恵
ベートーヴェン：《エグモント》序曲
ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第3番
ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第5番《皇帝》

S¥9,500 A¥8,000 B¥7,000 C¥6,000 P¥5,000 Ys¥2,500

第418回 2026年6月27日

盟友と紡ぐブルッフのロマンと勝利のベートーヴェン
指揮：広上淳一 [フレンド・オブ・JPO (芸術顧問)]
ヴァイオリン：ボリス・ベルキン
モーツァルト：歌劇《劇場支配人》序曲
ブルッフ：ヴァイオリン協奏曲第1番
ベートーヴェン：交響曲第5番《運命》

S¥9,500 A¥8,000 B¥7,000 C¥6,000 P¥5,000 Ys¥2,500

第419回 2026年7月4日

情熱と色彩が彩る、ドラマティックで美しい音楽の旅
指揮：西本智実 ピアノ：實川風
サン＝サーンス：歌劇《サムソンとデリラ》より「バッカナル」
グリーグ：ピアノ協奏曲
チャイコフスキー：交響曲第6番《悲愴》

S¥9,000 A¥7,500 B¥6,500 C¥5,500 P¥5,000 Ys¥2,500

第420回 2026年9月19日

指揮：調整中 ピアノ：河村尚子
(曲目調整中)

S¥10,000 A¥8,500 B¥7,500 C¥6,000 P¥5,000 Ys¥2,500

横浜定期 年間会員券 (Ys:25歳以下/S席除く)

S ¥58,000 A ¥48,000 B ¥42,000 C ¥36,000
P ¥27,000 (全9回) Ys ¥15,000

半期会員券

【春夏】S ¥33,000 A ¥28,000 B ¥24,000
C ¥21,000 P ¥17,000 Ys ¥9,000
【秋冬】S ¥34,000 A ¥29,000 B ¥25,000
C ¥21,000 P ¥14,000 (全4回) Ys ¥9,000

第421回 2026年10月31日

小林研一郎との絆の証
指揮：小林研一郎 [桂冠名誉指揮者]
オーボエ：杉原由希子 [首席奏者] クラリネット：伊藤寛隆 [首席奏者]
ホルン：信末碩才 [首席奏者] ファゴット：田吉佑久子 [首席奏者]
モーツァルト：ディヴェルティメント ニ長調 K.136
モーツァルト：協奏交響曲 変ホ長調 K.297b
ベートーヴェン：交響曲第7番

S¥9,500 A¥8,000 B¥7,000 C¥6,000 P¥5,000 Ys¥2,500

第422回 2026年11月22日(日)

サーの称号を持つ名ピアニストが、カーチュン・ウォンと再び豪華「響」演
指揮：カーチュン・ウォン [首席指揮者]
ピアノ：サー・スティーヴン・ハフ
ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第5番《皇帝》
サン＝サーンス：交響曲第3番《オルガン付き》

S¥9,500 A¥8,000 B¥7,000 C¥6,000 P¥5,000 Ys¥2,500

第423回 2026年12月19日

心震わす歓喜の歌とともに、新しい年へ
指揮：阪 哲朗
ソプラノ：隠岐彩夏 カウンターテナー：藤木大地
テノール：小堀勇介 バリトン：池内 響
合唱：東京音楽大学
ベートーヴェン：交響曲第9番《合唱》

S¥10,000 A¥9,000 B¥7,500 C¥6,000 P合唱団 Ys¥4,000

第424回 2027年1月9日

カーチュン・ウォンと祝うニューイヤーコンサート！
指揮：カーチュン・ウォン [首席指揮者]
トランペット：児玉隼人
ハチャトゥリアン：組曲《仮面舞踏会》
ハイドン：トランペット協奏曲
J.シュトラウス二世：喜歌劇《こもり》序曲
J.シュトラウス二世：ワルツ《美しく青きドナウ》
ラヴェル：《ダフニスとクロエ》第2組曲

S¥9,500 A¥8,000 B¥7,000 C¥6,000 P¥5,000 Ys¥2,500

第425回 2027年3月27日

ユーラシアとローマ、音楽が描く壮大な歴史絵巻
指揮：カーチュン・ウォン [首席指揮者]
ヴァイオリン：田野倉雅秋 [ソロ・コンサートマスター]
ポロディン：歌劇《イーゴリ公》序曲
ハチャトゥリアン：ヴァイオリン協奏曲
ムソルグスキー（リムスキー＝コルサコフ編曲）：交響詩《はげ山の一夜》
レスピーギ：交響詩《ローマの松》

S¥9,500 A¥8,000 B¥7,000 C¥6,000 P¥5,000 Ys¥2,500

ウィーンの薫り漂う珠玉のニューイヤープログラム

ウィーン・フィルのヴァイオリン奏者として活躍し、NHKで放送される元日の恒例の「ウィーン・フィルニューイヤーコンサート」にもスタジオ出演したことのあるヴィルフリート・和樹・ヘーデンボルクが、この回の主役を務めます。かつて本場ニューイヤー・コンサートを牽引し、日本フィルとも共演したことのあるヴィリー・ボスコフスキーへの追憶を込めた今回のプログラム。後半の曲目は1955年に初めてボスコフスキーが指揮したニューイヤー・コンサートのプログラムを、ヘーデンボルク氏自らリサーチして決定しました。ウィーンのエッセンスとこだわりがタツプリ詰まったこの公演、どうぞお楽しみに！

Programs

ベートーヴェン：《献堂式》序曲 op.124 (約10分)

Ludwig van BEETHOVEN: Overture "Die Weihe des Hauses", op.124

モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲第3番 ト長調 K.216 (約24分)

Wolfgang Amadeus MOZART: Concerto for Violin and Orchestra No.3 in G-major, K.216

—— 休憩 (15分) Intermission ——

ヨーゼフ・シュトラウス：ワルツ《我が人生は愛と喜び》op.263 (約7分)

Josef STRAUSS: "Mein Lebenslauf ist Lieb' und Lust", op.263

ヨハン・シュトラウス二世：

アンネン・ポルカ op.117 (約5分)

ポルカ・シュネル《浮き立つ心》op.319 (約3分)

ワルツ《ウィーン気質》op.354 (約8分)

ポルカ《帝都はひとつ、ウィーンはひとつ》op.291 (約4分)

ワルツ《芸術家の生活》op.316 (約9分)

Johann STRAUSS II: Annen-Polka, op.117, "Leichtes Blut", op.319, "Wiener Blut", op.354,
"S' gibt nur a Kaiserstadt, s' gibt nur a Wien", op.291, "Künstlerleben", op.316

指揮・ヴァイオリン：ヴィルフリート・和樹・ヘーデンボルク

Conductor & Violin: Wilfried Kazuki HEDENBORG

コンサートマスター：木野雅之 [日本フィル・ソロ・コンサートマスター]

Concertmaster: KINO Masayuki, JPO Solo Concertmaster

解説：小宮正安

ベートーヴェン：《献堂式》序曲 op.124

ルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン（1770-1827）が晩年に手掛けたオーケストラ曲あるいはオーケストラ付きの曲といえば、『交響曲第9番』（通称「第九」）と、同時期に書かれた『ミサ・ソレムニス』が突出して有名だ。いっぽう、これらと同時期に作曲された（作曲年は1822年）《献堂式》序曲は、ベートーヴェンのオーケストラ用序曲の中でも、取り上げられる機会が少ない。

なぜか？一言でいえば、「闘いと勝利の人ベートーヴェン」というイメージにそぐわない祝祭的な雰囲気、最初から最後まで貫かれているため。それも道理で、ウィーン市中心街の外に市民のために建てられた劇場（ヨーゼフシュタット劇場）の再開場に当たって上演された祝典劇《献堂式》のために書かれたのが、この曲だからだ。

献堂式とは、元々キリスト教の世界において新しい教会堂が完成した際、それを神に捧げ、祝福を受けるための儀式だった。ただしやがて徐々に教会の力が衰え、さらに聖職者や貴族に代わって市民が力を得る時代になると、劇場などの大きな建物の落成祝いにかんしても「献堂式」という呼称が用いられるようになる。

序曲は、長大な序奏と主部によって構成されている。序奏では華々しい和音に続き、木管楽器が奏でる厳粛な行進曲風の主題や、トランペットがファンファーレを奏でるといった具合に、いかにも祝典の場に相応しい音楽が出現。主部に入ると、2つの旋律（その中には「第九」の第4楽章の「喜びの歌」に似た動機も含まれる）を基に、二重フーガや対位法といった技法が用いられる。

これらの技法は、豪華壮麗さが追及された17～18世紀のバロック音楽で用いられたものであり、「献堂式」にいかにも相応しい。と同時に当時のベートーヴェンは、バロック音楽の象徴ともいえるヨハン・ゼバスティアン・バッハ（1685-1750）やゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル（1685-1759）の作品を研究し、それを自らの創作活動に反映させていた。まさに「温故知新」の精神が、当作品には凝縮されている。

楽器編成 フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、バス・トロンボーン1、ティンパニ1、弦楽5部。

モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲第3番 ト長調 K.216

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト（1756-1791）のヴァイオリン協奏曲については、現在判明しているところでは5曲が真筆である。しかもこれらの楽曲は1775年、作曲家が19歳の年に、わずか1年足らずの間に集中的に作曲された。

モーツァルトは当時、故郷ザルツブルクの宮廷楽団で第二コンサートマスターを務めていた。生前の彼は、鍵盤楽器と並んでヴァイオリンの演奏の腕前も超一流であり、この一連の協奏曲からもヴァイオリンに対する造詣の深さがうかがえる。

指揮・ヴァイオリン：
ヴィルフリート・和樹・ヘーデンボルク

6歳よりヴァイオリンを始める。1989年、モーツァルトウム国立音楽大学でルッジェーロ・リッチに師事し、1998年に最優秀の成績で修了（芸術学修士）。同年ウィーン市立音楽大学でヴェルナー・ヒンクに師事し、2001年に首席で卒業。「オーストリア青少年音楽コンクール」1位及び「ウィーン・フィルハーモニー特別賞」（1993年、奥）、「パブロ・デ・サラサーテ国際コンクール」（同年、西）4位受賞（最年少）。「リッチ国際コンクール」（1995年、独）1位受賞、

「タデウス・ヴロインスキー ソロヴァイオリン国際コンクール」（1997年、波蘭）1位受賞等。またヴァイオリンの弦の開発も手がけており「トマスチック・インフェルド」と契約を結び、1999年に「インフェルド・ヴァイオリン」の名称で商品化された。2001年にウィーン国立歌劇場管弦楽団に入団。2004年よりウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の正団員として活動する一方で、室内楽の演奏活動にも積極的に参加し、ソリストとしても活躍している。2018年にはリッカルド・ムーティとルッジェーロ・リッチの100周年記念演奏会でパガニーニの協奏曲4番を共演、そしてフィルハーモニア・エテルナと十束尚宏氏の指揮でロージャのヴァイオリン協奏曲を日本初演。同年より協議会会長として国立歌劇場オーケストラを、加えて2023年より中央協議会会長としてオーストリア連邦劇場を代表。1998年にモーツァルトウム国立音楽大学（クリスタ・リヒター・シュタイナー勲章）及びオーストリア連邦省より叙勲された。使用楽器は M. Schwalb と D. Bague。1977年生まれ。

最新CDは『ベートーヴェン：ピアノ三重奏曲 作品 44、97、121a /ヘーデンボルク・トリオ』
Official Website <http://www.hedenborg.at>

小宮正安の
オーケストラ
ガイド

今日のコンサートの聴きどころは？

ヨーロッパ文化史研究家小宮正安さんの
面白解説をお楽しみください！

14時20分
より
大ホール内
にて♪

小宮正安（こみや まさやす）●ヨーロッパ文化史・ドイツ文学研究家。横浜国立大学（大学院都市イノベーション学府・都市科学部）教授。著書に『ベートーヴェン（第九）の世界』（岩波新書）、『ばらの騎士』（音楽之友社）、『エリザベートと黄昏のハプスブルク帝国』（創元社）、『コンスタンツェ・モーツァルト〈悪妻〉伝説の虚実』（講談社選書メチエ）、『音楽史 影の仕掛人』『オーケストラの文明史 ヨーロッパ3000年の夢』（春秋社）、『モーツァルトを「造った」男ケッヘルと同時代のウィーン』（講談社現代新書）、『愉悦の蒐集 ヴンダーカンマーの謎』（集英社新書）など多数。NHK『ウィーンフィル・ニューイヤーコンサート』でのコメンテーターをはじめテレビやラジオへの出演や監修、『東京・春・音楽祭』でのナビゲーターなど、幅広い分野で活躍している。



なおモーツァルトは1774年から1775年にかけて、隣国のバイエルンの都であるミュンヘンに自作のオペラ上演のために滞在し、その地で流行していた華麗なフランス音楽の洗礼を受けている。そうした影響は当ヴァイオリン協奏曲の中にも如実に表れており、とりわけこの曲の持ち味である典雅な響きは、「フランス風」のもの。しかも第3番は前作から3カ月ほど後の完成にもかかわらず、飛躍的な発展が成し遂げられており、音楽の美しさや内容の豊かさから、以降の2曲とともに演奏会のレパートリーとして愛奏されている。

第1楽章：アレグロ、ト長調、四分の四拍子

冒頭に登場する第1主題の旋律は、同年の4月に初演されたモーツァルト作曲の音楽劇《羊飼いの王様》のアミンタのアリアからとられている。

第2楽章：アダージョ、ニ長調、四分の四拍子

オーボエの代わりにフルートが用いられ、弦楽合奏も弱音器を用い、美しい独奏の歌を引き立てる。

第3楽章：ロンド アレグロ、ト長調、八分の三拍子

ポプリ(メドレー)風の形式で、フランスの影響が色濃い楽章。アレグレットの旋律は当時流行していたフランス発のポピュラーな民謡(シュトラスブルガー)から引用しており、これもフランス様式の特徴であった。

楽器編成 独奏ヴァイオリン、フルート2、オーボエ2、ホルン2、弦楽5部。

ヨーゼフ・シュトラウス：ワルツ《我が人生は愛と喜び》op.263

「ワルツ王」として有名なヨハン・シュトラウスII世(1825-99)の弟であり、兄と同じダンス音楽家として、当の兄に勝るとも劣らない才能を発揮したヨーゼフ(1827-70)。「ワルツのシューベルト」という呼び名を与えられたことから分かるように、彼の作品は単に踊るためでなく、聴き手の耳を思わずそばだたせるかのような芸術性にも溢れている。

ワルツ《我が人生は愛と喜び》もその1つ。1869年におこなわれたウィーン大学の学生用の舞踏会のために書かれた1曲で、湧きたつような躍動感と、心の襞にはいりこむかのような抒情性が、混然一体となっている。

この演奏会では、目の不自由なお客様のために点字プログラムをご用意しております。ご要望の方は主催受付までお申し出ください。

●お客様へのお願い●

演奏中はお手持ちの時計のアラーム、または携帯電話などの電源はお切りください。手荷物、傘、チラシ類などの物音、話し声や体の動きなどで他のお客様のご迷惑にならないようご配慮をお願い申し上げます。尚、録音、録画、演奏中の写真撮影は固くお断りしております。

ヨハン・シュトラウスII世：アンネン・ポルカ op.117

カトリックの伝統が強いオーストリアでは、1年間の各日にカトリックの聖人の名前が割り当てられており、自分の名前が合致する日を祝うという風習がある。その風習に則り、当ポルカは1852年、聖アンナの祝日に先立って初演され、大好評を博した。

ヨハン・シュトラウスII世：ポルカ・シュネル《浮き立つ心》op.319

1867年の作品。当時、都市改造に沸いていた、シュトラウスII世のホームタウンであるウィーンの賑わいや希望を反映したかのような1曲だ。(なお日本語では「浮気心」と訳されることも多いが、原題“Leichtes Blut”に近い意味で、新たな題名の訳をつけた。)

ヨハン・シュトラウスII世：ワルツ《ウィーン気質》op.354

1873年、時のオーストリア皇帝フランツ=ヨーゼフの長女がバイエルンの王子と結婚するにあたり、その祝賀舞踏会のために作られた。なおこの特別な催しのために、ウィーン・フィルの母体であるウィーン宮廷歌劇場管弦楽団が出演。作曲者のシュトラウスII世が、ヴァイオリンを片手に「弾き振り」をおこなった。

ヨハン・シュトラウスII世：ポルカ《帝都はひとつ、ウィーンはひとつ》op.291

題名は、19世紀前半にウィーンで初演されたウィーンの庶民に人気だった歌芝居のタイトルから採られている。そのひそみにシュトラウスII世もならない、毎年のように夏の演奏旅行をおこなっていたロシアのパプロフスクで、ウィーンへの郷愁と讚美に満ちた当作品を、1864年に作曲した。

ヨハン・シュトラウスII世：ワルツ《芸術家の生活》op.316

1867年、ウィーン芸術家協会の舞踏会のために書かれた。この作品が誕生する前年には、ドイツ統一をめぐるプロイセンを相手に勃発した戦争でオーストリアが敗北を喫し、当時のウィーンにも重苦しい空気が立ち込めていた。そんな空気を払拭し、ウィーン子の心を湧きたたせるべく書かれた作品の1つこそ、弾むような勢いと、官能的な響きに溢れたこのワルツである。

楽器編成 フルート2(ピッコロ持替1)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、バス・トロンボーン1、ティンパニ1、大太鼓、小太鼓、シンバル、弦楽5部。



Column

歴史でひもとく! ~クラシックこぼれ話 by 小宮正安



『我が人生は愛と喜び』

本日の演奏会の休憩後、冒頭に演奏される予定のワルツ『我が人生は愛と喜び』。これは、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団(以下「ウィーン・フィル」と省略)の歴史において、重要な位置を占めている作品だ。

話は、1955年のニューイヤーコンサート(およびその前日におこなわれた1954年のジルヴェスターコンサート)に遡る。この年のニューイヤーコンサートは、それまで同演奏会で長年にわたって指揮者を務めてきたクレメンス・クラウス(1893-1954)が急逝したことを受け、ウィーン・フィルのコンサートマスターだったヴィリー・ボスコフスキー(1909-91)が指揮台に登場。ヴァイオリンを片手に、シュトラウス二世を彷彿させる「弾き振り」で演奏会の冒頭に取り上げた曲こそが、『我が人生は愛と喜び』だった。

このようにクラウスのピンチヒッターを務めたボスコフスキーだったが、演奏会は大成功。やがてニューイヤーコンサートはテレビ中継されるようになり、ボスコフスキー自身が、文字通りこの名物演奏会の代名詞と化してゆく。

そうした状況の中、ウィーン・フィルは1959年秋に2度目となる来日公演を実現(初来日は1956年)。「帝王」ヘルベルト・フォン・カラヤン(1908-89)の指揮による、東南アジアおよび北米ツアーの一環だったが、その中で11月5日のみ、カラヤンが指揮をしない特別演奏会が開催される。それこそが、ボスコフスキーが弾き振りをおこなう、ニューイヤーコンサート・イン・トウキョウとも呼ぶべき催しだった。

会場は、千駄ヶ谷の東京体育館。この時代の来日公演における他の会場とは比べ物にならないほどの大きな空間で、ウィーン縁のポピュラーなダンス音楽の名曲を通じ、ウィーン・フィルの魅力を大勢の人々が楽しんだ。

そんな演奏会の最初に鳴り響いたのが、まさにボスコフスキーとウィーン・フィルの勝負曲ともいえる『我が人生は愛と喜び』だった。第二次世界大戦下の暗い過去を乗り越え、中立国オーストリアの誇る「音楽大使」として、世界各地にウィーンの響きを届けつつあった当時のウィーン・フィルの姿勢を、鮮やかに物語る1曲に他ならない。そしてボスコフスキー初のニューイヤーコンサートのプログラムを踏まえた選曲で、ウィーン・フィルの伝統を今に受け継ぐヘーデンボルクが、1980年代にボスコフスキーも指揮をした日本フィルを指揮し、横浜にウィーンの風を届けてくれる。



ウィーンの宮廷舞踏会で自らの楽団を弾き振りするシュトラウス二世(テオ・ツァッシェ画、1888年)

Next YOKOHAMA

第415回 横浜定期演奏会

2026年3月21日(土) 15:00
横浜みなとみらいホール

指揮: 小林研一郎 [桂冠名誉指揮者]

クラリネット: 伊藤寛隆 [首席奏者]

モーツァルト: クラリネット協奏曲

ベートーヴェン: 交響曲第3番《英雄》

S席 ¥9,500 A席 ¥8,000 B席 ¥7,000 C席 ¥6,000 P席 ¥5,000 Ys席 ¥2,500

※ Ys席: 25歳以下の方が対象のお席です。S席以外から選べます。

© 山本倫子



小林研一郎

© 井村重人



伊藤寛隆



日本フィルの「交響三題！」

2/17 四発売

2026年5月16日(土) 14:00 東京芸術劇場

2026年5月17日(日) 14:00 サントリーホール

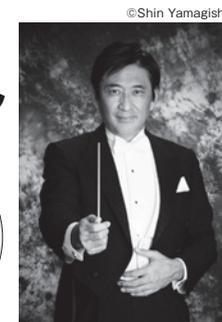
指揮: 藤岡幸夫

シベリウス: 交響詩《フィンランディア》

チャイコフスキー: 交響曲第5番

ベルリオーズ: 幻想交響曲

お得な
セット券あり!
詳細は挟み込みの
チラシをご覧ください。



© Shin Yamagishi

チケット料金 (税込)

[5/16]

S席 ¥8,500 A席 ¥7,000 B席 ¥6,000 C席 ¥5,000 D席 ¥3,500
Gs (70歳以上) 席 ¥5,000 Ys (25歳以下) 席 ¥2,500

[5/17]

S席 ¥9,000 A席 ¥7,500 B席 ¥6,500 C席 ¥5,500 P席 ¥4,500
Gs (70歳以上) 席 ¥5,500 Ys (25歳以下) 席 ¥2,500

2026年7月 東京定期演奏会
客員首席指揮者ネーメ・ヤルヴィ 来日中止のお知らせ

2026年7月の第782回東京定期演奏会に出演を予定しておりましたが、客員首席指揮者ネーメ・ヤルヴィ氏は、2025年7月に転倒による怪我を負われ、その回復に努めておられました。しかしながら、長距離フライトを伴う来日は医学的見地から当面の間は難しいとの結論に達し、誠に残念ながら今回の来日を断念することとなりました。

2026年9月 桂冠指揮者兼芸術顧問アレクサンドル・ラザレフ 来日中止
および1回券発売日変更についてのお知らせ

2026年9月の東京・横浜定期演奏会と杉並定期演奏会に出演を予定しておりましたが、当団桂冠指揮者兼芸術顧問アレクサンドル・ラザレフ氏は、ご家族に健康上の懸念が生じたことにより、誠に残念ながら現時点で9月の来日が困難であるとの結論に至りました。

70周年記念公演の大きな柱である指揮者お二人の降板となり、楽しみにお持ちくださっていた皆様には、多大なるご迷惑とご心配をおかけしますことを深くお詫び申し上げます。なお、定期会員券につきましては引き続き日本フィル・サービスセンターにて販売を行います。杉並定期演奏会につきましては、杉並公会堂ホームページをご覧ください。何卒事情をご賢察のうえ、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

【2026/2027 シーズン 東京定期演奏会、横浜定期演奏会の1回券発売について】

発売中

▶東京定期演奏会 4月～6月
(第779回、第780回、第781回)

▶横浜定期演奏会 4月～7月
(第416回、第417回、第418回、第419回)

発売延期

(内容確定次第発売日を発表いたします)

▶東京定期演奏会 7月、9月
(第782回、第783回)

▶横浜定期演奏会 9月
(第420回)

本日の公演は終演時のカーテンコールでの写真撮影が可能です

携帯電話・スマートフォン付属のカメラで着席のまま撮影をお願いいたします。フラッシュ、動画撮影はお控えください。詳しくは会場の掲示をご覧ください。

◆定期会員券ご寄付のお願い◆

お客様のご都合により、定期演奏会にご来場いただけなくなった時は、是非日本フィルにチケットをご寄付ください。有効に活用させていただきます。

【ご寄付の方法】

ご寄付いただける会員券の公演日・座席数・座席番号を日本フィル・サービスセンターにお電話かFAX、メールにてご連絡の上、会員券をご郵送ください。主催会場でも受け付けます。

- 公演1週間前のご寄付に関しては、会員券のご郵送は不要です。●会員券のご郵送代はお客様にてご負担いただきます様ご協力をお願いいたします。
- ご寄付いただいた定期会員の皆様には、ご寄付いただきました公演月のプログラム冊子を後日ご郵送いたします。また、翌月または翌々月のプログラムにご芳名を掲載させていただきますので、掲載をご希望されないお客様はご連絡をお願いいたします。

横浜定期演奏会の定期会員券をお譲りいただきました。心より御礼申し上げます。

12月の寄付者 匿名4名

敬称略・五十音順

日本フィル・サービスセンター
〒166-0011
東京都杉並区梅里1-6-1

TEL: 03-5378-5911 (平日10時～17時)
FAX: 03-5378-6161 (24時間)
e-mail: order-ticket@japanphil.or.jp

横浜定期会員の特典

横浜ベイホテル東急(横浜みなとみらいホール向かい)にて、メンバーズ優待を行っております。

飲食: 下記店舗で、飲食料金が10%OFFとなります。(4名様まで) ※除外日および対象外メニューあり

オールデイダイニング「カフェ トスカ」/ラウンジ「ソマーハウス」/中国料理「スーツァンレストラン陳」

※会計時に横浜定期会員券をご提示ください。※この割引は日本フィルのコンサート開催日以外にも有効です。※指定以外の店舗、および宴会は対象外ですのでご了承ください。※他の特典・割引との併用はいたしかねます。

公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団

(1956年6月創立)

- 創立指揮者/渡邊暁雄
- 桂冠名誉指揮者/小林研一郎
- 名誉指揮者/ルカーチ・エルヴィン
- 名誉指揮者/ジェームズ・ロッドラン
- 客員首席指揮者/ネーメ・ヤルヴィ
- 首席指揮者/カーチュン・ウォン
- 桂冠指揮者兼芸術顧問/アレクサンドル・ラザレフ
- フレンド・オブ・JPO (芸術顧問) /広上淳一

公式X (元Twitter)
@Japanphil



ソロ・コンサートマスター 扇谷泰朋 木野雅之 田野倉雅秋 アシスタント・ コンサートマスター 千葉清加 第1ヴァイオリン 伊藤太郎 太田麻衣 九鬼明子 齋藤政和 榊 渚 竹歳夏鈴 成澤美紀 宮坂典幸 森田麻友美 山口雅之 フルート ◎真鍋恵子 齋藤光晴 難波 薫 オーボエ ◎杉原由希子 ◎松岡裕雅 佐竹真登 クラリネット ◎伊藤寛隆 ◎楠木 慶 照沼夢輝 ファゴット ◎田吉佑久子 ◎鈴木一志 中川日出鷹 ホルン ☆丸山 勉 ◎信末碩才 伊藤 舜 原川翔太郎 村中美菜	ソロ・チェロ 門脇大樹 菊地知也 チェロ 石崎美雨 伊堂寺 聡 江原 望 大澤哲弥 久保公人 篠原和仁 山田智樹 コントラバス 鈴木優介 成澤美紀 宮坂典幸 森田麻友美 山口雅之 フルート ◎真鍋恵子 齋藤光晴 難波 薫 オーボエ ◎杉原由希子 ◎松岡裕雅 佐竹真登 クラリネット ◎伊藤寛隆 ◎楠木 慶 照沼夢輝 ファゴット ◎田吉佑久子 ◎鈴木一志 中川日出鷹 ホルン ☆丸山 勉 ◎信末碩才 伊藤 舜 原川翔太郎 村中美菜	ソロ・トランペット オットー・クリストファー トランペット ◎大西敏幸 ◎犬飼伸紀 中里州宏 中務朋子 星野 究 トロンボーン ◎伊藤雄太 ◎笠間勇登 福島莉那 バス・トロンボーン 中根幹太 チューバ 柳生和太 ティンパニ ◎エリック・バケラ ◎池田健太 パーカッション 大河原 渉 本間雄也 ハープ 松井久子 楽団長 伊藤寛隆 チーフステージマネージャー 阿部紋子 ステージスタッフ 長橋健太 森田大翔 チーフインスペクター 佐藤駿一郎 インスペクター 鈴木優介 谷崎大起 ライブラリアン 鬼頭さやか 坂庭史映 杉本哲也	会長 (代表理事) 平井俊邦 理事長 (代表理事) 石塚邦雄 副理事長 (代表理事) 五味康昌 専務理事 (代表理事) 福井英次 常務理事 (代表理事) 後藤朋俊 理事 石井啓一郎 佐々木経世 田村浩章 戸所邦弘 葉田順治 福本ともみ 別府一樹 監事 福澤宏哉 細谷義徳 評議員会会長 加藤丈夫 評議員 青井 浩 安孫子 正 荒崎康一郎 石村 等 稲垣 尚 内川清雄 大塚宣夫 梶浦卓一 河北博文 喜多崇介 木村恵司 久保田 隆 小林研一郎 島田精一 津田義久 中根幹太 西澤 豊 野間省伸 福満一夫 村上典吏子 山口多賀幸	名誉顧問 熊谷直彦 島田晴雄 田邊 稔 チーフマーケティングオフィサー 伊藤治彦 マネジメントスタッフ 浅見浩司 磯部一史 江原陽子 及川ひろか 小川紗智子 荻島里帆 賀澤美和 香取春子 金田雅子 小須田明 佐々木文雄 澤田智夫 篠崎めぐみ 杉山綾子 杉山まどか 高橋勇人 田中正彦 樋谷祐子 中村沙緒里 西山大輔 西山真菜 長谷川珠子 樋高雄太 藤田千明 古館順一 堀川 桂 益満行裕 宗澤晶子 山岸淳子 吉岡浩子 和田美希 シニア・パートナー 新井康允 伊波 睦 永島義郎 南部洋一 吉江信博	団友 青柳哲夫 青山 均 赤堀泰江 新井豊治 石井啓一郎 伊藤恒男 伊波 睦 宇田紀夫 遠藤 功 遠藤剛史 大石 修 箕 美知子 柏熊由紀子 加藤祐一 金本順子 蒲谷隆行 川口和宏 川口 貴 菊田秋一 岸良開城 吉川利幸 木村正伸 小山 清 齋藤千種 佐々木裕司 佐藤玲子 菅原 光 高木裕子 高木雄司 高木 洋 高倉理実 高山智仁 田沢 烈 立川和男 富樫尚代 豊田尚生 中川二朗 永田健一 中務幸彦 奈切敏郎 橋本 洋 楠井紀代子 平賀法子 福島喜裕 松本克己 松本伸二 三本克郎 宮武良平 三好明子 森 茂 山下進三 山科淑子 渡辺智雄
--	--	--	--	---	--

◎首席奏者 ☆客演首席奏者
○副首席奏者 □試用期間

(2026年1月1日現在)